

未来へつなぐために ～四日市公害と環境未来館 開館5周年～



四日市公害と環境未来館は四日市公害の歴史と教訓を次世代に伝えるとともに、環境改善の取り組みや産業の発展と環境保全を両立したまちづくり、さらには、その経験から得た知識や環境技術を広く国内外に情報発信することを目的に平成27年3月21日、開館しました。今回は、この3月で5周年を迎える四日市公害と環境未来館について、館長の生川さんにお話を伺いました。

多様な来館者

四日市公害と環境未来館には年間を通してたくさんの方が訪れています。そのなかでも社会見学などで訪れる小中学校の数は多く、平成30年度には150もの学校が来館しました。四日市内内では全校が来館して小学5年生および中学3年生が公害・環境学習を行っています。学校などの団体が見学する場合は、職員が案内と解説を行います。最近では県内だけでなく愛知や滋賀といった県外からも学びに訪れる学校が増えているようです。

四日市公害と環境未来館の常設展示は、2階のフロア全体にあります。高度経済成長期に発展した四日市市の産業のようすから公害の発生、環境改善までの歴史を学ぶことができます。さらにこの常設展示では、当時を語る数多くの証言を聞くことができます。ただ見る展示だけでなく、公害を体験したさまざまな立場の方たちによる証言から「四日市公害」を多角的な視点で学ぶことができるのが特徴です。

また小・中学校のほかに、大学のゼミや自治体、自治会のほか、企業の社員研修や海外からの視察・研修も数多く受け入れています。公害を乗り越えた経験と、培った環境技術を学ぶために、

海外からも多くの人が訪れているのです。

生川館長
「こうした多様な来館者に対し、四日市公害の歴史と教訓を伝え、ともに未来に豊かな環境を引き継いでいくことが当館の使命です。」

また、次の世代につなげていくために、四日市公害と環境未来館には職員のほかにも、公害の記憶を語り継ぐ「語り部」、市民ボランティアである「解説員」、環境活動の実践者である「四日市市エコパートナー」がともに活動しています。四日市公害と環境未来館を拠点に「未来へ、より良い環境を引き継ぐために」協働する三者の取り組みについてもご紹介します。



▲海外からの視察・研修

【お話を伺った人】

四日市公害と環境未来館 館長

なるかわ たかし
生川 貴司さん

～開館5周年を迎えて～

現在まで国内外26万人を超える方々にご来館いただきました。これもひとえに館設立にあたり、貴重な資料の提供等多大なご尽力をいただいた市民、企業の皆様、また館の運営にお力添えをいただいている多くの関係者の皆様のおかげと深く感謝しています。